

第1回（仮称）地域活性化発信交流拠点基本計画策定 検討委員会 資料

目 次

- 1. （仮称）地域活性化発信交流拠点の概要 P1
- 2. 基本計画策定に向けた検討事項等 P3
- 3. 基本方針・コンセプト（案） P5
- 4. 利用ニーズ調査 P13
- 参考資料 P17

1. (仮称)地域活性化発信交流拠点の概要

1-1. これまでの経緯

はじめに・・・

(仮称)地域活性化発信交流拠点とは、(仮称)三芳バザール賑わい公園構想の現名称

※ 令和5年度に第6次総合計画の策定にあたり名称変更

年度	内容	備考
平成12年度	都市計画マスタープラン 策定	計画の検討を進める方向性の提示
平成18年度	三芳町第4次総合振興計画 策定	重点プロジェクトに位置づけ
	三芳スマートIC ハーフ型として本格運用	
平成27年度	三芳スマートICフル化整備 事業化決定	
平成28年度	三芳町第5次総合計画 策定	重点プロジェクトに位置づけ
	武蔵野の落ち葉堆肥農法 日本農業遺産認定	
平成29年度	(仮称)三芳バザール賑わい公園構想(案)の作成	
平成30年度	(仮称)三芳バザール賑わい公園構想 基本構想策定	
令和5年度	三芳スマートIC フル化供用開始	
	三芳町政策研究所のテーマとして選定	提言書作成
	みよし野のガーデン里山探訪 ガーデンツーリズム登録	
	武蔵野の落ち葉堆肥農法が世界農業遺産認定	
令和6年度	(仮称)地域活性化発信交流拠点の基本計画策定 (予定)	

1. (仮称) 地域活性化発信交流拠点の概要

1-2. (仮称) 三芳バザール賑わい公園構想 基本構想

【検討内容】

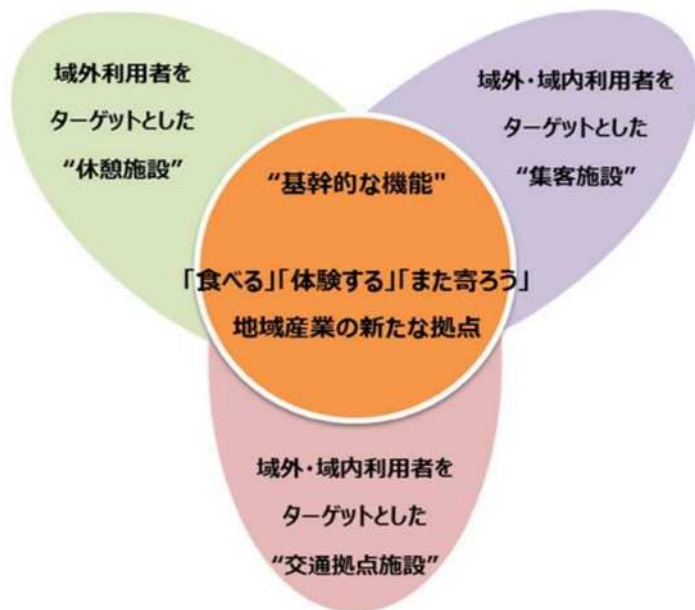
- ・公園構想の候補地
- ・利用パターン
- ・ターゲット
- ・整備コンセプト
- ・導入機能
- ・整備効果

【課題】

- ・整備における課題
→官民連携による整備運営の実現など
- ・民間参画の可能性
→民間事業者への参画促進など
- ・交通ネットワークにおける課題
→バス需要の見極めなど

(仮称) 三芳バザール賑わい公園 整備コンセプト

「農」に出会える町
「食べる」「体験する」「また寄ろう」の3つの視点から
地域産業の新たな拠点の形成を目指す



1-3. 三芳町政策研究所「未来創造みよし塾」 (仮称) 三芳バザール賑わい公園構想 プロジェクトチーム

スマートICフル化供用の目途が立ったことから、改めて(仮称)三芳バザール賑わい公園構想の検討を進めるにあたり、三芳町政策研究所のテーマとして選定し、本構想の実現に向けた調査・研究を行うこととした。

- ・SA/PAなど他事例研究
- ・三芳PAおよび周辺エリア等の現地視察
- ・施設機能に関する意見交換
- ・提言書(案)の提示

- ・基本コンセプトは、**世界農業遺産を主軸**に置き、施設機能も**農業を大きなテーマ**に据えて検討していく。

明日へとつなぐ三芳町の魅力再発見
～世界農業遺産から産業・文化・生活の発信拠点～

- ・三芳 PA 及び Pasar 三芳との連携は**必須**と考える。
- ・候補地は、三芳PA下り線側の**西側**を選定
- ・三芳スマート IC フル化供用開始から期間を空けずに開始することが望ましく、**早期に実現**することが望ましい。

2. 基本計画策定に向けた検討事項等

2-1. 会議主旨・目的

主旨・目的

町のイメージ向上を目指す情報発信機能や、地域の多業種が連携した活力創生につながる商業拠点の実現を目指す「(仮称)地域活性化発信交流拠点」の基本計画を策定することを目的とする。

1-1. 検討内容

(1) 前提条件の整理・基本計画に向けた課題の抽出

基本構想等をふまえた、三芳町および計画地の特徴、課題、整備の方向性を抽出。

(2) 基本方針(案)、コンセプト(案)

(仮称)地域活性化発信交流拠点の基本方針(案)、コンセプト(案)の検討。

(3) 導入機能(案)

基本方針、コンセプトを踏まえた、導入機能(案)を検討。

(4) 民間事業者等へのプレヒアリング

民間事業者等の提案内容や意見・意向を確認し、(2)、(3)をフィードバック。

(5) 整備コンセプト・整備方針・導入機能

(1)～(4)を踏まえ、整備コンセプト、整備方針、導入機能の確認。

(6) 配置計画

ゾーニングや動線計画、配置計画の検討。

(7) 事業手法、事業スケジュール

想定される整備手法や管理運営手法から最適な事業手法・スキームを検討。また、全体スケジュールを検討。

(8) 基本計画書(案)

これまでの検討および決定事項を踏まえた、基本計画書(案)の確認。

1-2. 検討体制

(仮称)地域活性化発信交流拠点基本計画策定 検討委員会

所属・職名	名前
東京大学大学院 農学生命科学研究科 農学国際専攻 教授	八木 信行
立正大学 地球環境科学部 地理学科 教授	伊藤 徹哉
飯能信用金庫 三芳支店 支店長	宮田 佳律
三芳町商工会	有村 誠
三芳町農業経営研究会 会長	田畑 和樹
みよし野菜ブランド化推進研究会 会長	浅沼 克己
特定非営利活動法人れいでいばーど	飯塚 結花
三芳町長	林 伊佐雄※
東日本高速道路株式会社 サービスエリア・新事業本部 サービスエリア・新事業統括課 課長代理	岡崎 優※
ネクセリア東日本株式会社 事業計画部 次長	中島 豪誠※

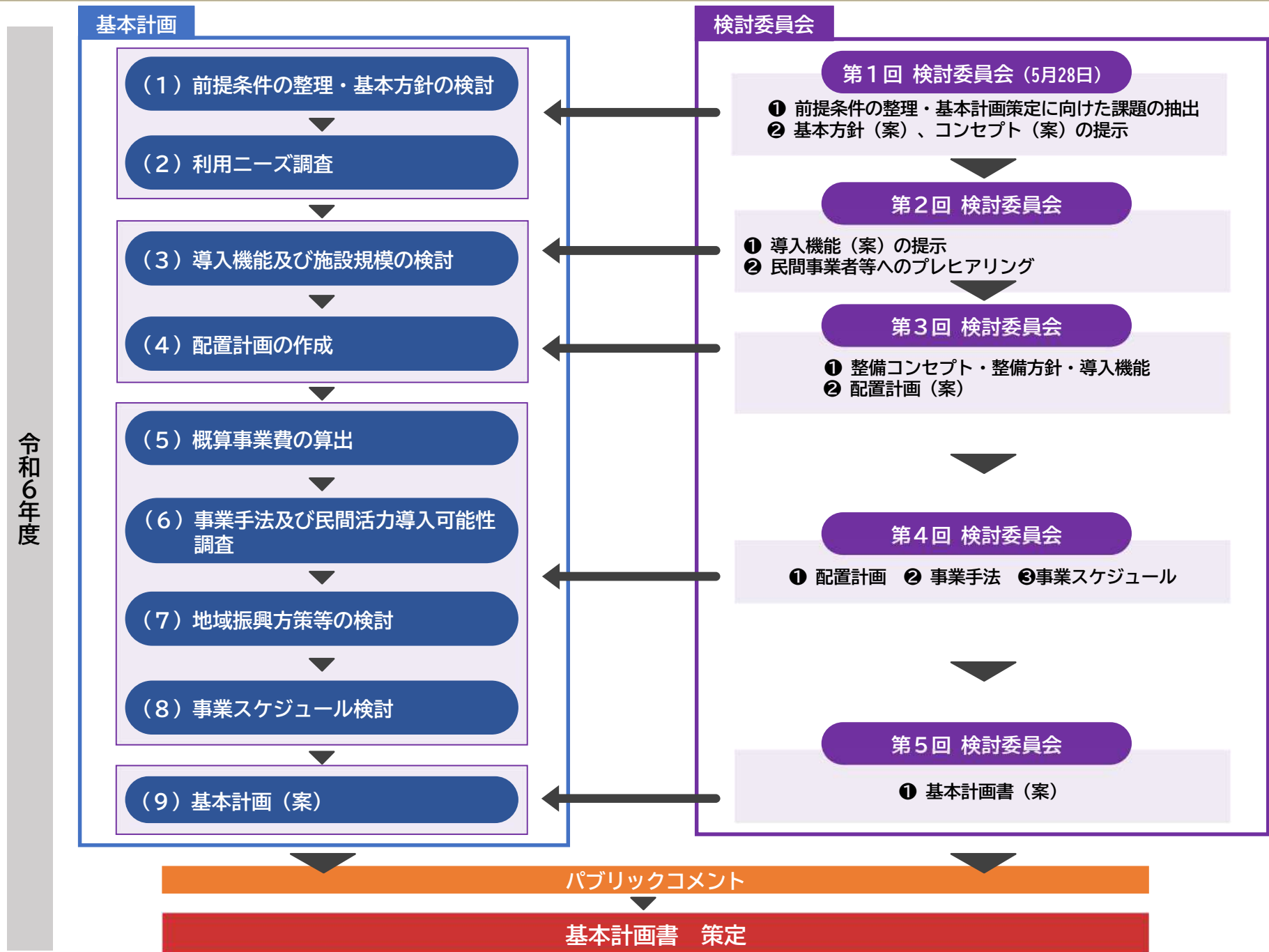
○事務局

・三芳町道路交通課

※オブザーバー

2. 基本計画策定に向けた検討事項等

2-2. 検討の流れ



3. 基本方針・コンセプト（案）

3-1. 前提条件の整理

三芳町は、みどり豊かな武蔵野の雑木林や三富新田に代表される田園風景が広がる自然と都市機能が調和した「トカイナカ」。



人口

約3万8千人(2024年5月現在)

面積

15.33平方キロメートル

地勢

- ・ 首都圏 30km に位置し、埼玉県の南西部、武蔵野台地の北東部にあたる。
- ・ 海拔は 37.5m 前後
- ・ 東は志木市・富士見市、南東は新座市、南西は所沢市、北はふじみ野市・川越市と隣接している。
- ・ 東京から一番近い緑のオアシス

気候

- ・ 温暖湿潤気候
- ・ 年間平均気温は約14度
- ・ 降水量は約1200ミリメートル



産業

- ・ 農業：サツマイモ、茶、野菜など
- ・ 商業：商業施設や物流施設が多数立地
- ・ 工業：製造業

交通

- ・ 鉄道：町内には鉄道駅がない
- ・ バス：西武バス、東武バス、町内循環バス
- ・ 道路：国道254号、県道334号線、県道56号線

観光

- ・ みよし野ガーデンツーリズム：里山の風景を観光資源とするマイクロツーリズム【国土交通省ガーデンツーリズム認定】
- ・ オープンフォレスト：平地林（ヤマ）を中心とした自然を感じる「雑木の庭」
- ・ 旧島田家住宅：江戸時代の豪農の暮らしを再現した古民家
- ・ 三芳町立歴史民俗資料館：三芳町の歴史や文化に関する資料を展示

特産品

- ・ 「みよし野菜」：2015年に「みよし野菜」として地域ブランドを登録。埼玉県三芳町で栽培されている野菜の総称。三芳町は、豊かな自然環境と水資源に恵まれ、古くから農業が盛んに行われてきました。みよし野菜は、その歴史と伝統を受け継ぎ、安全・安心・高品質な野菜として全国的に高い評価を得ている。
- ・ 「富の川越いも」：武蔵野の面影を残す三芳町上富の地で、平成29年3月に日本農業遺産にも認定された、江戸時代より受け継がれる「落ち葉堆肥農法」により、愛情込めて栽培している「富（とめ）の川越いも」。



3. 基本方針・コンセプト（案）

3-1. 前提条件の整理



3. 基本方針・コンセプト（案）

3-1. 前提条件の整理

【計画対象地の条件整理】

項目	計画地
都市計画区域	市街化調整区域
容積率	100%
建ぺい率	60%
農地	農業振興地域内農用地区域
農振除外後の農地区分	第1種農地
景観	埼玉県景観計画 一般課題地域
文化財	埋蔵文化財包蔵地域 三富開拓地割遺跡

候補地 周辺環境

- ・ 三芳 PA（下り）、三芳スマート IC（下り）付近に位置し、主なアクセスは 町道幹線 14 号線
- ・ 敷地付近には高压鉄塔が存在

候補地 インフラ 状況

- ・ 敷地周辺に電気、上水、ガスのインフラ設備が整備
- ・ 下水設備は、一部敷地周辺に雨水管や污水管が敷設されていないところもある

周辺観光 施設等

- ・ 寺社（竹間神社（江戸時代後期の「新編武蔵野風土記稿」に「三十番神社」として記載されている神社）、多福寺、多間院、木ノ宮地藏堂、神明社、広源寺、木宮稻荷神社、北永井稻荷神社、阿弥陀堂、青龍山寿福寺泉蔵院）
- ・ 竹間沢のこぶしの里（3月下旬から4月上旬に美しい白いこぶしの花が咲く場所）
- ・ 三芳町の特産品のひとつ「富の川越いも」。その生産を担う農家が軒を連ねる「いも街道」が近接。シーズンにはのぼりが立ち並び、さつまいもやみよし野菜の直売が行われている。

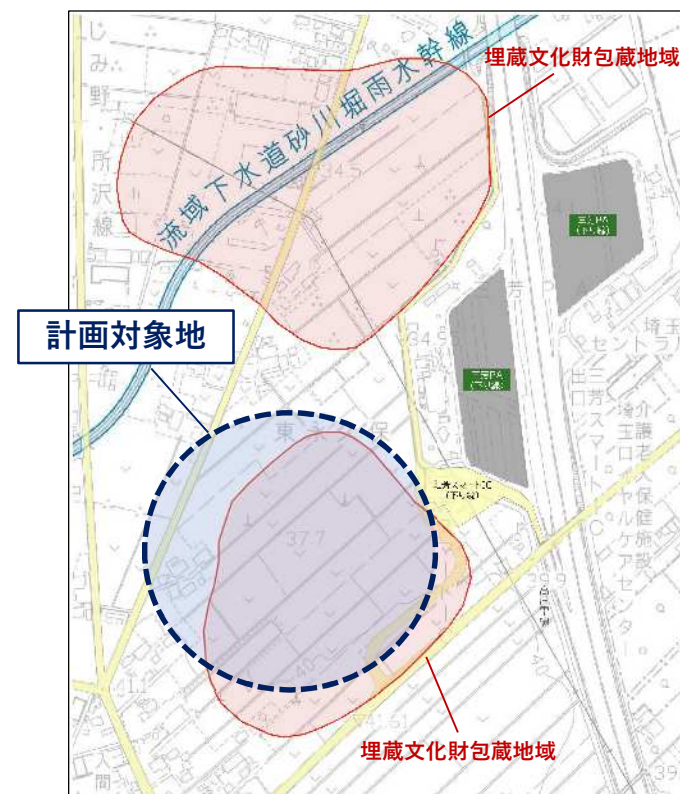


図 三芳町たんけんマップ（出典：三芳町HP）

3. 基本方針・コンセプト（案）

3-2. 三芳町の特徴・強み

【三芳町の課題と解決の方向性】

【三芳町の課題・弱み】

【三芳町の特徴・強み】

【拠点整備の方向性】

農地の保全と農業振興が必要

観光施策を進める必要がある

雇用の確保・就労支援が必要

商業・サービス業が希薄

町や観光の知名度が低い

ブランド力向上・PRが必要

交通機関が脆弱

日本農業遺産・世界農業遺産に認定された。

・伝統的、環境にも優れた農業により、町の発展が期待される。
・日本農業遺産・世界農業遺産を通じて、日本の各地、世界の各地と結ばれ、交流促進を図ることのできる可能性をもつ。

美しい武蔵野の景観が継続的に維持されている。

・町内には美しい平地林の景観がいたるところにあり、町の魅力、町民の誇りとなっている。これと結びついた観光農園などは町のPRにつながる可能性がある。

スマートインターチェンジがフル化供用された。

・SICの活用により、関越道利用者の拠点や町への取り込みが期待できる。

災害に強い町。

・地盤が強固。
・水害が少ない。

方向性Ⅰ 日本農業遺産・世界農業遺産

世界農業遺産をより広め、農業活性化にもつなげるため、町および国内・世界の農業遺産の発信拠点としていく

- 農業遺産ミュージアム
- 農業・農業遺産のアンテナショップ
- 農業体験施設・農家レストラン
- 日本の各地・世界の各地とつながる

方向性Ⅱ 武蔵野の景観を象徴する

平地林を地域イメージとして強調する
緑を活かす水の恵みを創出する

- 象徴としての平地林の創出
- みよし野ガーデン里山探訪の基地の形成
- みどりの景観八景等の紹介
- せせらぎ等の水の潤いの創出

方向性Ⅲ スマートICフル化供用

スマートインターチェンジフル化のストック効果を活かす・広域につながる利便を活かす

- 関越自動車道利用者の利用施設の拡大
- 新たな観光空間の創出
- 高速バスターミナルや市内バスルート
の拡充
- 広域防災拠点としての機能性向上

3. 基本方針・コンセプト（案）

3-3. 事例紹介（農業シーンを活かした地域づくり）

方向性Ⅰ 日本農業遺産・世界農業遺産

① 情報発信（DX技術を活用した事例）

360°VRで巡る紅葉名所（長野県箕輪町）

[特徴]

- ・紅葉の名所で有名な長野県箕輪町は特設サイトを作り、VR技術を使った動画と静止画のコンテンツを公開している。
- ・上空から撮影した鮮やかな紅葉の景色は圧巻。また、VRだからこそ景色を独り占めして歩いているかのように堪能することができる。
- ・ノベルティ用のVRゴーグルにも紅葉のイラストがデザインされ、VRコンテンツの世界観を届けている。



② 国際交流・姉妹都市

台湾・台南市と日本・京都市の取組み

- ・オンライン交流会：両市の市民や学生がオンラインで交流できるイベントを開催
- ・バーチャル観光：VR技術を用いて、お互いの都市をバーチャルに観光できるコンテンツを作成
- ・オンラインビジネスマッチング：両市の企業がオンラインで商談できる場を提供

京都府京都市（日本）のとフランスパリ（フランス）の取組み

- ・毎年「京都・パリ音楽祭」を開催し、両市の音楽文化を相互に紹介。
- ・伝統文化だけでなく、現代的な表現形式を取り入れることで、幅広い層にアピールできる。

大阪府大阪市（日本）と中国上海市（中国）の取組み

- ・経済交流会を開催し、上海企業の大阪進出を促進。

方向性Ⅱ 武蔵野の景観を象徴する

① ガーデンツーリズム

みよし野ガーデン里山探訪

～里山・農・花を巡る旅～

令和5年3月に国土交通省より「みよし野ガーデン里山探訪」が登録・決定された。オープンフォレスト、オープンファーム、オープンガーデンの3つのコンテンツを掲げ、都市近郊でさまざまな価値に会えるマイクロツーリズム（短距離観光）によって、持続可能なシステムの継承と地域活性化を目的としている。



② 景観形成

大峰山で自然観察会とエコツアー【奈良県天川村】

[特徴]

- ・体験型ミュージアムを拠点に自然観察会とエコツアーを実施。
- ・エコツアー目当ての新たな観光客を獲得。観光客の質の向上に繋がった。

[取組内容]

- ・洞川エコミュージアムセンターは、自然、水、修験道をテーマに大峯山系の豊かな自然や生活環境をそのまま生かした博物館。地域の情報や滞在プログラムを収集提供し、ニーズに応じた案内を実施。
- ・滞在プログラムとして、毎年10回程度、新緑や親子向け、歴史などをテーマにした自然観察会とエコツアーを開催。



農村の価値を再構築【兵庫県丹波篠山市】

[特徴]

- ・地域の歴史的建築物を相続者や所有者が維持保存することは困難な場合が多い。
- ・自治体が所有している文化財も財政難のため維持管理が困難となる。
- ・農山村体験を通じた旅行や観光の情報発信拠点として改修運営。

[取組内容]

- ・集落の古民家の空き家を持ち主より借り受け、歴史的建築物の意匠や風合いを保存しながら古民家を改修し宿泊施設として再生する。→「地域の暮らし」を体験する滞在（宿泊）拠点とする。
- ・歴史文化施設の管理運営・地域コミュニティ（自治会等）に対する中間支援。



③ 農業公園

あけぼの山農業公園【千葉県柏市】

[公園区域]

- ・「あけぼの山公園」と「柏市あけぼの山農業公園」区域との2つの区域

[公園の管理区分]

- ・指定管理者である「あけぼの山パートナーズ」、富勢地区ふるさと農園営農組合の2者が連携して維持管理、管理運営を行っている。

[公園の利用状況：入園者数]

- ・年間50万人前後で推移。BBQ施設、花畑、市民農園、体験農園等



3. 基本方針・コンセプト（案）

3-3. 事例紹介（道の駅）

方向性Ⅰ～Ⅲ

日本農業遺産・世界農業遺産、武蔵野の景観を象徴する、スマートICフル化供用

事例 道の駅 遠野風の丘（岩手県 遠野市）

広域防災拠点として高度な防災機能を担

防災
拠点

登録年：平成8年
設置路線：国道283号
駐車台数：大型16台、小型212台、身障者用4台
特徴的な取組：

● 防災の拠点

東日本大震災では、復旧、救援に向かう自衛隊・消防隊やボランティアの方々の後方支援拠点として機能

● 産業振興の拠点

沿岸被災地の海産物を販売する鮮魚店を開設し、被災地の復興を支援



● 観光や地方移住等 総合案内拠点

沿岸被災地の海産物を販売する鮮魚店を開設し、被災地の復興を支援

事例 道の駅 みかも（栃木県 栃木市）

国と藤岡町が連携し、首都圏被災時の支援拠点としての機能を整備

防災
拠点

登録年：平成16年
設置路線：国道50号
駐車台数：大型39台、小型83台

特徴的な取組：

以下の役割を担うように整備

- 避難所 ・ 一次避難所として、スペースの提供
・ トイレ、飲料水の提供
- 輸送拠点 ・ 東北自動車道、国道50号を利用し、運ばれてきた救援物資等を集約し、「みかも」周辺の被災地各所に分配
- 情報発信 ・ 道路の規制情報や被災の情報等を提供
- 首都圏への支援拠点
・ 大地震による首都圏被災時に北からの物資輸送等の支援拠点



事例 道の駅 輪島（石川県 輪島市）

地域課題解決のための電動小型低速車「WA-MO」による交通システムの検証

公共交通
拠点

登録年：平成14年
設置路線：県道1号線
駐車台数：大型4台、小型56台

特徴的な取組：

- 道の駅を起点として、将来の無人自動走行も見据えた電動カートの試験走行を実施。
- 隣接している文化会館と道の駅の間を渡り廊下で結び、利用者が雨でも濡れずに行き来できる環境を整備



事例 道の駅 桜の郷荘川（岐阜県 高山市）

道の駅とまちづくり協議会の連携による、地域住民交流拠点の形成

住民
サービス

登録年：平成12年
設置路線：国道158号
駐車台数：大型5台、小型156台、身障者用2台

特徴的な取組：

- 温泉施設や屋内運動場を活用した住民密着型の取組により、住民の憩いの場、交流の場として機能
- 温泉施設利用者への無料送迎サービス、屋内運動場でのスポーツフェスティバルの開催等、地域住民の健康増進に資する様々な取組を実施。
- 道の駅が地区のまちづくり協議会へ積極的に参画・連携し、住民ニーズを踏まえた取組を展開することで、地域住民の交流の場を形成。



事例 道の駅 川場田園プラザ（群馬県 川場村）

「農業プラス観光」で人口約3,700人の村に年間約120万人が来訪

農業振興
拠点

登録年：平成8年
設置路線：群馬県道64号線
駐車台数：853台

特徴的な取組：

- 農業プラス観光
園内では朝取り野菜・ブルーベリーや乳製品などの地域資源を活かし、果物狩りや陶芸などの体験やイベント等により、村民と来訪者の交流の機会を提供
- 地域のゲートウェイ
観光協会スタッフがビジターセンターに常駐し、宿泊、体験施設など、地域全体の観光案内



事例 道の駅 内子フレッシュパークからり（愛媛県 内子町）

地元農家を中心とした商品開発、町内の農産物販売額の15%を占める

農業振興
拠点

登録年：平成8年
設置路線：国道379号
駐車台数：大型2台、小型180台

特徴的な取組：

- 季節の農作物にあわせて加工商品を開発販売
内子町内の農産物販売額の約15%を売り上げる
- ITを導入して鮮度を追求することで、安全安心な農産物提供システムを構築

出荷する地場農産物にトレーサビリティやPOSシステムを導入
販売情報が連絡され、在庫に合わせて出荷者が直接納品することで鮮度向上を追求



三芳の
農と食

産地
直送



基本方針 1 「三芳の農と食」

武蔵野インビテーション ガーデンツーリズムゲート

来訪者・周辺地域住民・町民

- ・この町の農のくらしと農のもたらす食を知る
- ・この町の農園や農を活かした飲食施設等の体験・利用

そのためには

- ・三芳町の農の精神的・情動的な拠点
- ・三芳町の農に関わる施設に誘うためのアンテナ施設



【コンセプトの目指すところ】

- 武蔵野のまちへのインビテーション（招待）機能（平地林・農業・食事・歴史・美しい景観）
- 町の農園・農業振興施設・農家レストラン・農家カフェなどのアンテナ機能・アンテナショップ

基本方針 2 「町からつながる・広がる」

産地直送・世界のアンテナ ワークステーション三芳

三芳パーキングエリアに隣接した産地直送施設を設置する

- ・自動車道と産地直送を掛け合わせることで消費者に魅力を容易に連想（例えば・・・関越自動車道が結ぶ北陸など）
- ・物流機能を直接的に活かした効率的な販売施設が整備可能

三芳の農の施設と併せて世界農業遺産を活用した情報発信をする

- ・高い集客性とシーズンに偏りのない人気を保持し継続的な賑わいを維持
- ・農とは違った国内外の産品、情報の持つ誘引力により多様な魅力を創出

【コンセプトの目指すところ】

- 武蔵野のまちに産地直送をかけあわせることで双方が引き立つ・際立つ相乗機能
- 三芳町とともに国内・世界の発信拠点ともしていく情報発信機能

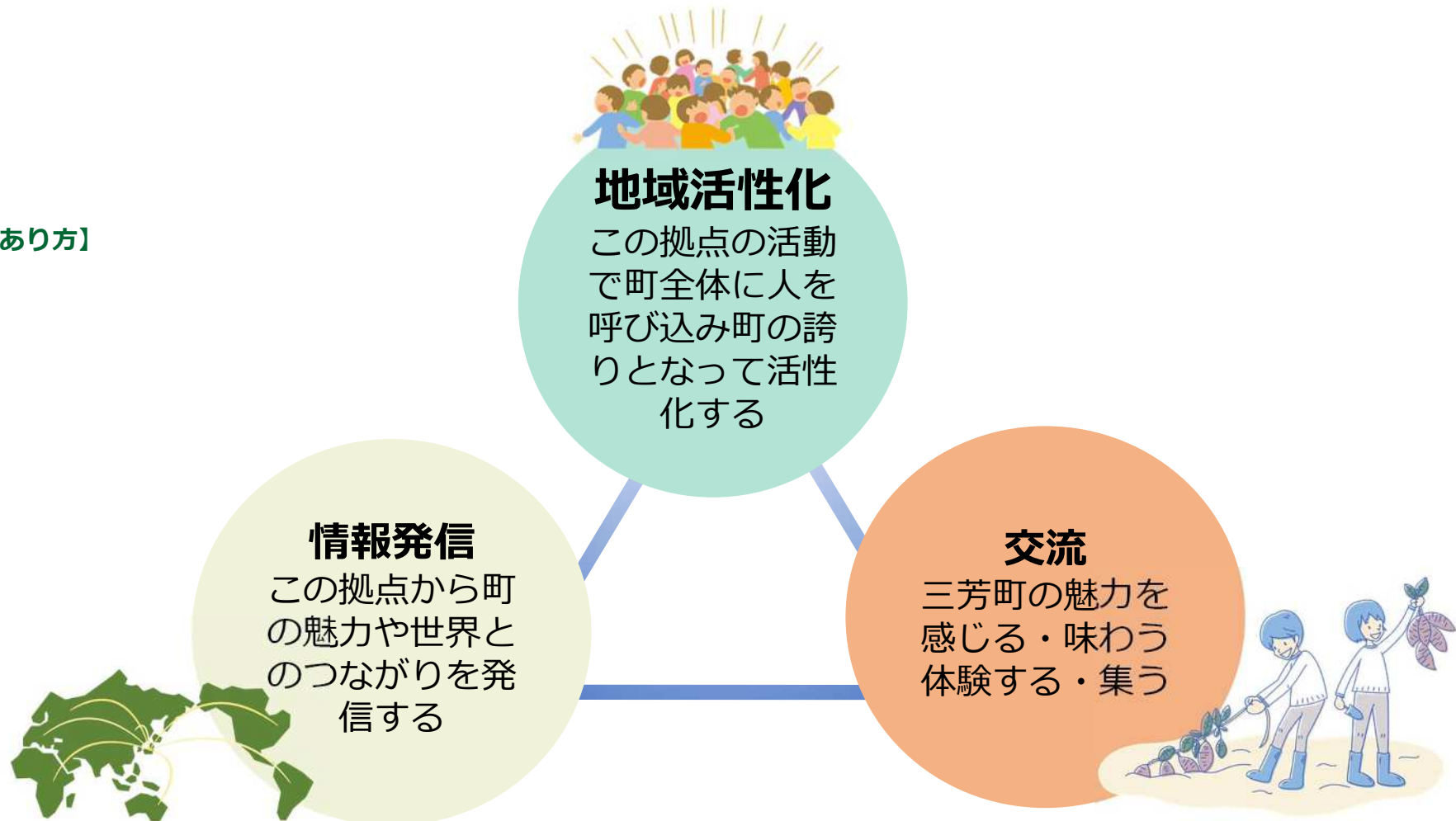
【基本コンセプトについて】

明日へとつなぐ三芳町の魅力再発見

～世界農業遺産から産業・文化・生活の発信拠点～

三芳町政策研究所「未来創造みよし塾」(仮称)三芳バザール賑わい公園構想プロジェクトチーム提言書（R5.10）

【拠点のあり方】



4. 利用ニーズ調査（1）

4-1. 認知度（出現率調査）

三芳町の認知度について関東7県を対象とした調査結果

出現率調査：これからwebアンケートを実施するが、調査対象となる母集団の中で特定の条件に合致する個体の割合を調査するもの。
 関東7県を対象として事前に出現率調査を実施した。その結果、サンプル2,000回収のうち**880名(44.2%)**が**三芳町**を認知していた。

	知っている	知らない
茨城県	31人 (3.5%)	51人 (4.6%)
栃木県	22人 (2.5%)	39人 (3.5%)
群馬県	35人 (4.0%)	30人 (2.7%)
埼玉県	217人 (24.7%)	99人 (8.9%)
千葉県	99人 (11.3%)	181人 (16.3%)
東京都	328人 (37.3%)	421人 (38.0%)
神奈川県	148人 (16.8%)	288人 (26.0%)
全体	880人 (44.2%)	1109人 (55.8%)

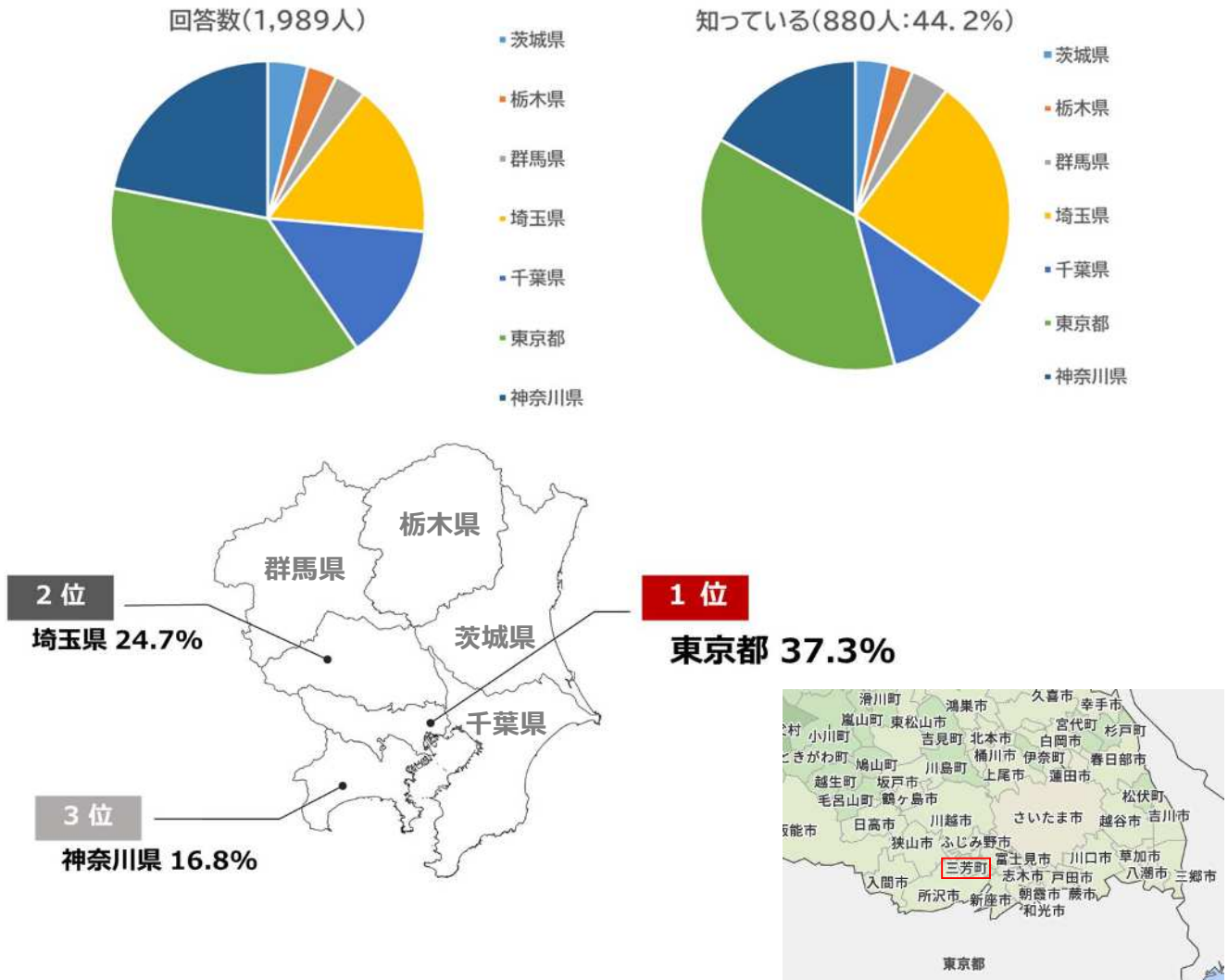


図 関東7県における三芳町の認知度

4. 利用ニーズ調査（1）

4-2. 利用ニーズ調査①（町民・周辺市民）の概要

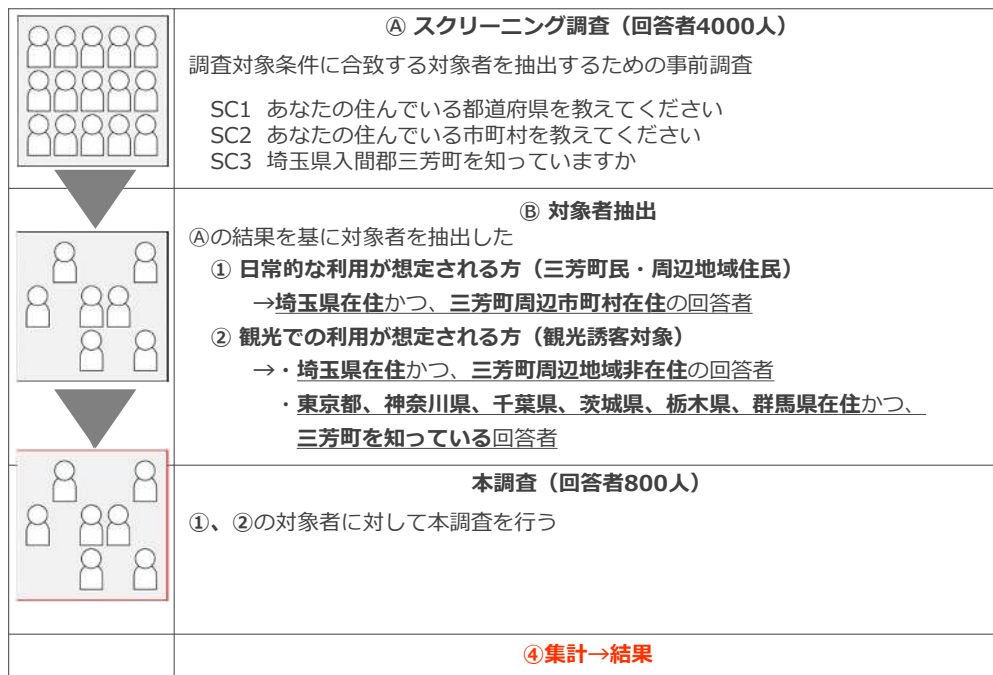
1-1. 目的と調査範囲

目的	今後、拠点の利用者となってゆく町民・周辺市民あるいは観光誘客対象にアンケートを実施し、地域活性化発信交流拠点に、どのような機能・施設を求めているか、どのようなイベントを求めているかを把握する。
調査範囲・規模	<p>① 日常的な利用が想定される方（三芳町民・周辺地域住民） 三芳町、ふじみ野市、富士見市、狭山市、所沢市、志木市、新座市、川越市、入間市 回収数：400票以上</p> <p>② 観光での利用が想定される方（観光客） 埼玉県（日常利用する方以外）、東京都、神奈川県、茨城県、栃木県、群馬県、千葉県在住、かつ、三芳町を知っている方 回収数：400票以上</p>
調査手法	WEBアンケート

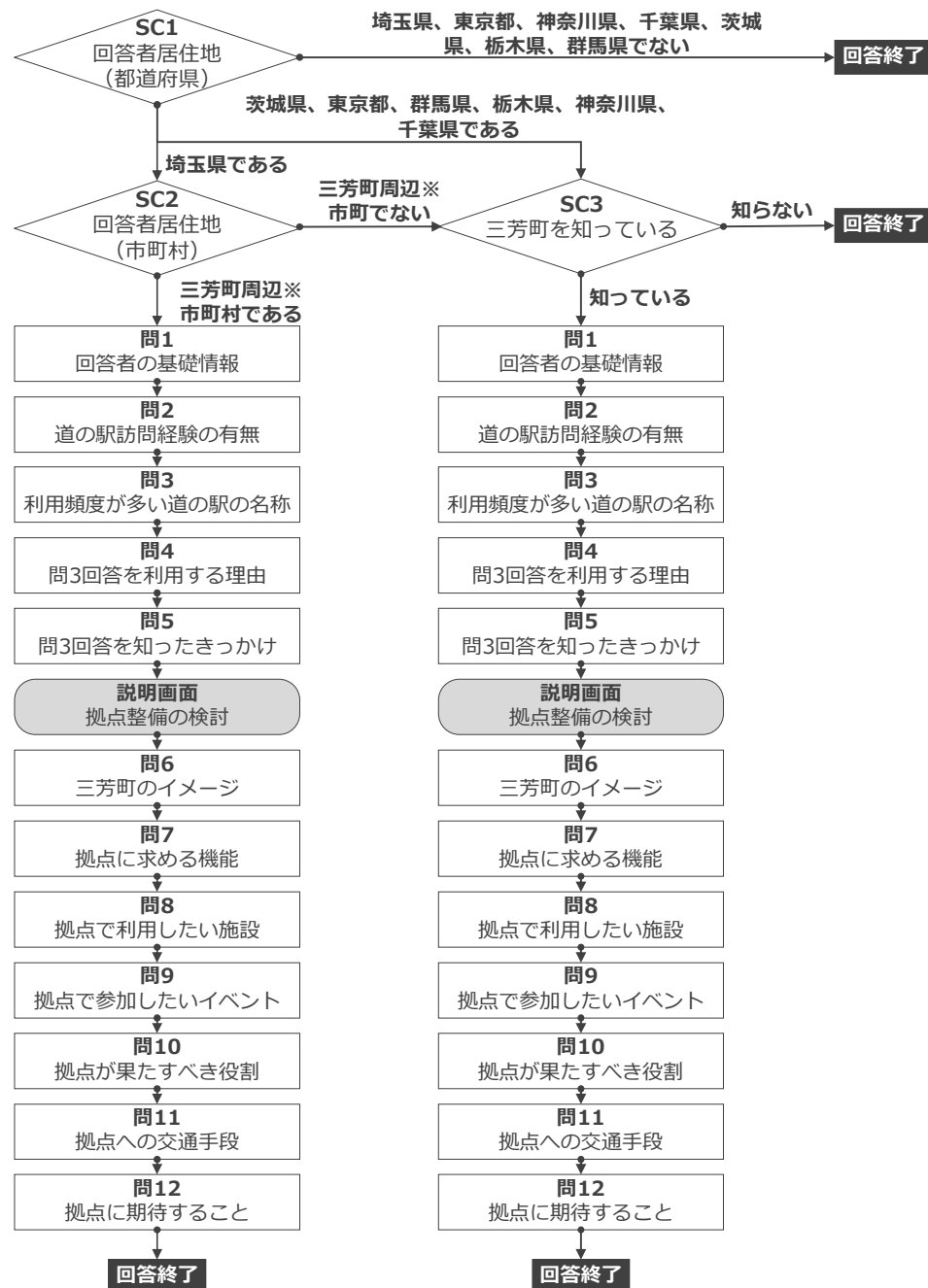


1-2. スクリーニング調査

スクリーニング調査とは、調査対象条件に合致する対象者を抽出するための事前調査です。



1-3. 調査フロー図



※題材として、地域活性化発信交流拠点に類似の道の駅の訪問経験を確認

4. 利用者ニーズ調査（1）

4-3. 利用ニーズ調査①（町民・周辺市民） 調査票

SC1 あなたの住んでいる都道府県を教えてください。

- | | | | |
|------|-------|-------|-------|
| ①北海道 | ③東京都 | ⑤滋賀県 | ⑦香川県 |
| ②青森県 | ④神奈川県 | ⑥京都府 | ⑧愛媛県 |
| ③岩手県 | ⑤新潟県 | ⑦大阪府 | ⑨高知県 |
| ④宮城県 | ⑥富山県 | ⑧兵庫県 | ⑩福岡県 |
| ⑤秋田県 | ⑦石川県 | ⑨奈良県 | ⑪佐賀県 |
| ⑥山形県 | ⑧福井県 | ⑩和歌山県 | ⑫長崎県 |
| ⑦福島県 | ⑨山梨県 | ⑪鳥取県 | ⑬熊本県 |
| ⑧茨城県 | ⑩長野県 | ⑫島根県 | ⑭大分県 |
| ⑨栃木県 | ⑪岐阜県 | ⑬岡山県 | ⑮宮崎県 |
| ⑩群馬県 | ⑫静岡県 | ⑭広島県 | ⑯鹿児島県 |
| ⑪埼玉県 | ⑬愛知県 | ⑮山口県 | ⑰沖縄県 |
| ⑫千葉県 | ⑭三重県 | ⑯徳島県 | |

SC2 あなたの住んでいる市町村を教えてください。

- | | | | | |
|------|------|------|-------|--------|
| ①三芳町 | ②川越市 | ③所沢市 | ④狭山市 | ⑤入間市 |
| ⑥朝霞市 | ⑦志木市 | ⑧新座市 | ⑨富士見市 | ⑩ふじみ野市 |
| ⑪その他 | | | | |

SC3 埼玉県入間郡三芳町を知っていますか

- ①知っている ②知らない

問1. あなたの事についてお聞きます。

職業	①会社員	⑥専業主婦・主夫
	②公務員	⑦学生
	③自営業や個人事業主	⑧アルバイトやパート
	④会社役員	⑨無職
	⑤自由業	⑩その他
同居家族について	①配偶者	④自身の親・配偶者の親
	②子供	⑤その他
	③同居していない	
自家用車の所有状況	①所有している	②所有していない

問2. 今までに道の駅等に行ったことはありますか。

- ①ある ②ない

問3. 問2で「ある」と答えた方は、最も行く頻度の多い道の駅等はどこですか。（自由記述）

ひとつまで

問4. 問2で選択した道の駅に行く頻度が多い理由は何ですか。

- ①車で移動中、気軽に休憩ができるから
- ②その土地の名産品を購入することができるから
- ③その土地の食材を食べることができるから
- ④その地域の観光情報や道路の情報を入手することができるから
- ⑤建物のデザインが良いから、あるいは親しみやすいから
- ⑥特徴的な催しやイベントがあるから
- ⑦トイレがきれいで使いやすいから
- ⑧その他（ ）

問5. 問2で選択した道の駅を知ったきっかけは何ですか。

- | | |
|--------------|--|
| ①新聞・雑誌等の記事 | ⑧カーナビ |
| ②地域新聞（ミニコミ誌） | ⑨知人から聞いて |
| ③販促雑誌等の記事・宣伝 | ⑩SNS |
| ④チラシやパンフレット | ⑪たまたま通りかかった、道路案内 |
| ⑤ポスター・掲示物 | ⑫表示板を見た |
| ⑥テレビ | ⑬ラジオ |
| ⑦インターネット | ⑭その他（ ） |
| ⑧行政の広報雑誌 | |

問6. 三芳町にどんなイメージを持っていますか。（いくつでも）

- | | | |
|--------|----------|--|
| ①気候が良い | ④産業が豊か | ⑦三芳PAがある |
| ②自然が豊か | ⑤食事が美味しい | ⑧わからない |
| ③文化が豊か | ⑥地域活動が盛ん | ⑨その他（ ） |

問7. 三芳町に地域活性化発信交流拠点が整備される場合、その拠点到求める機能はなんですか。（3つまで）

- ①車で移動中、気軽に休憩ができる機能
- ②三芳町ならではのものを購入することができる機能
- ③三芳町ならではのものを食べることができる機能
- ④三芳町や周辺地域の観光情報を入手することができる機能
- ⑤三芳町周辺の道路情報を入手することができる機能
- ⑥三芳町の産業に触れることができる機能
- ⑦地域住民と観光客が交流できる機能
- ⑧特徴的な催しやイベントを開催する機能
- ⑨子育てを支援する機能
- ⑩子供が遊べる機能
- ⑪三芳町の産業を体験する機能
- ⑫バリアフリー機能(高齢者などにやさしい機能)
- ⑬防災機能
- ⑭最先端の環境に配慮した機能
- ⑮三芳町への移住・定住を促進するような機能
- ⑯その他（ ）

問8. 三芳町に地域活性化発信交流拠点が整備される場合、どのような施設があれば利用したいと思いますか。（3つまで）

- | | |
|--|--|
| ①産地直売所・販売所 | ⑫展示施設 |
| ②お土産等の物販所・売店 | ⑬遊具施設 |
| ③飲食店
(食堂・レストラン・カフェ等) | ⑭キャンプ・バーベキュー場 |
| ④授乳室、乳児室等 | ⑮地域活動などのための貸スペース
(大学サテライトキャンパス、研究室、
道路メンテナンス学習棟) |
| ⑤体験教室・講座・創作体験施設
(産直料理教室、そば打ち、
うどん打ち、陶芸づくりなど) | ⑯宿泊施設
(コンテナハウスなど
(非常時の宿泊施設兼用)) |
| ⑥休憩所(屋内) | ⑰コワーキングスペース |
| ⑦休憩所(屋外) | ⑱温浴施設 |
| ⑧体験農園 | ⑲アーバンスポーツ施設 |
| ⑨広場・ステージ・緑地 | ⑳診療所 |
| ⑩資料館・博物館・美術館 | ㉑グランピング ㉒キッズスペース |
| ⑪産業体験施設
(観光農園、工場見学等) | ㉓その他（ ） |

問9. 三芳町に地域活性化発信交流拠点が整備される場合、どのようなイベントがあったら参加したいと思いますか。（3つまで）

- ①グルメや地元特産品を活かした「食」のイベント・マルシェ
- ②朝市やフリーマーケットや「物販」のイベント
- ③春、夏、秋、新春の祭礼などの「伝統的なおまつり」イベント
- ④農業体験イベント
- ⑤農業や林業・世界農業遺産に関する学習、研修、講座などの「学ぶ」イベント
- ⑥自然観察会などの子どもを中心とした「体験」イベント
- ⑦外国人との交流を促す「国際交流」に関するイベント
- ⑧雑木林、松並木、長屋門等のまちなみ探訪会
- ⑨その他（ ）

問10. 三芳町に地域活性化発信交流拠点が整備される場合、どのような交通手段で行きたいですか。

- | | | | |
|------|-------|-------|--|
| ①徒歩 | ③バイク | ⑤自家用車 | ⑦営業車 |
| ②自転車 | ④公共交通 | ⑥トラック | ⑧その他（ ） |

問11. 三芳町に地域活性化発信交流拠点が整備される場合、果たすべき役割はなんだと思いますか。（3つまで）

- | | |
|------------------------|--|
| ①農業・林業を振興させる役割 | ⑦先端技術を活用・新たに生み出す役割 |
| ②飲食業を発展させる役割 | ⑧教育機関や研究機関との連携を
推進する役割 |
| ③地元産業を振興させる役割 | ⑨防災拠点としての役割 |
| ④地域住民のコミュニティを
高める役割 | ⑩持続可能な社会を形成する役割 |
| ⑤地域住民の消費を支える役割 | ⑪その他（ ） |
| ⑥多くの観光客を呼び込む役割 | |

4. 利用ニーズ調査（2）

4-4. 利用ニーズ調査②（三芳PA利用者）の概要

3-1. 目的と調査範囲

目的	今後、拠点の利用者となることが想定される関越自動車道利用者やスマートインターチェンジ利用者に地域活性化発信交流拠点に、どのような機能・施設を求めるか、どのようなイベントを求めているかを把握する。
調査範囲・規模	① 三芳パーキングエリア上り線の①PA利用者、②Pasar利用者 NEXCOに許可を得て実施 回収数：30票以上
	② 三芳パーキングエリア下り線のPA利用者 NEXCOに許可を得て実施 回収数：30票以上
調査手法	オープンハウス形式

3-2. オープンハウス形式

オープンハウスとは、屋外（PA内、Pasar入口前）にて、拠点に導入しようとする機能を分かりやすく展示し、どのような機能が望まれるか、設問に答えていただく方式。



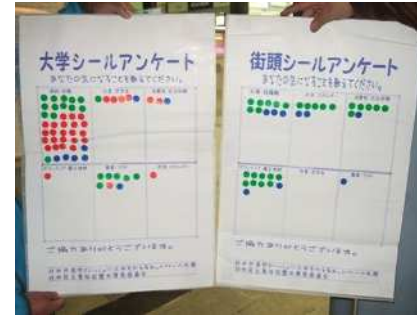
※写真は、国営木曽三川公園で公園整備の意向を利用者に確認したものと一致するものではありません。

3-3. 調査イメージ

オープンハウスは、屋外を歩いている人に無理なく、短時間で必要な設問に回答いただく手法であり、次のような方法があげられる。

- ・シールアンケート
- ・対面インタビュー
- ・用紙記入方式

NEXCOの意向やPAの利用状況を踏まえて、方式を決めてゆく。



設問イメージ1
この場所のイメージ

設問イメージ2
この場所の便利さ・不便さ

設問イメージ3
この場所にあつたらいい施設

設問イメージ4
ここで売っていたらいいもの

設問イメージ5
拠点に期待すること

設問イメージ6
Pasarにない施設

設問イメージ7
Pasarにない欲しいもの

設問イメージ8
下り線PAにない施設

設問イメージ9
下り線PAにない欲しいもの

参-1. 地勢・位置

- 三芳町は首都圏 30km に位置し、埼玉県の南西部、武蔵野台地の北東部にあたり、面積は 15.33 km²で、東西は 6.9km、南北は 4.2km にわたり、東は志木市・富士見市、南東は新座市、南西は所沢市、北はふじみ野市・川越市と隣接している。
- 標高 37.5m 前後（役場付近）であるが、西端部では 50m、東南端で 10m、大部分は 25m～45m 程のなだらかな起伏を有しながら西から東へ緩やかに下る勾配をもつ平坦な台地である。
- 河川は東南端を流れる柳瀬川以外はなく、北部には都市下水路の砂川堀、排水路として南部には唐沢堀、東部には江川がある。



図 位置図
(出典：三芳町HP)

参-2. 人口

- 本町は昭和40年代の高度成長期に首都圏のベッドタウンとして、人口が爆発的に増え1975年には約24000人となった。その後の推移は、住民基本台帳人口の人口推移を見ると、平成25年の総人口38,323人をピークに減少傾向にある。
- 令和4年度の総人口は37,807人、世帯数は16,860戸となり、人口密度は2,466.2人/Km²である。
- 地区別の人口の割合は総人口37,738人（令和4年12月末現在）に対して、藤久保22,219人、北永井6,488人、竹間沢4,086人、上富3,094人、みよし台1,851人といった割合である。

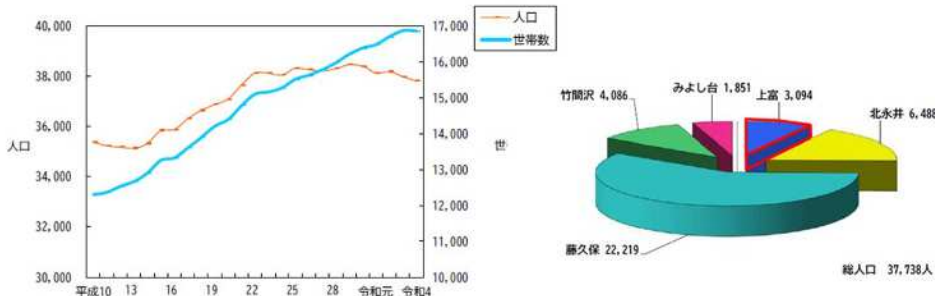


図 三芳町の人口・世帯数の推移
(出典：統計みよし (令和4年版))

参-3. 歴史・文化財

- 三芳の曙は、約3万年前の旧石器時代にさかのぼる。
- 古代・中世を思い起こさせる文化財や地名も残されており、先人たちの足跡を今に伝えている。三芳の地域が本格的に開発されたのは江戸時代に入ってから、川越藩主・柳沢吉保による「三富新田開拓」により、三芳の大地を開拓。

三芳の遺跡

三芳町には現在33箇所
の遺跡があり、発掘調査によって先人たちの新たな足跡を知ることができる。



富の川越いも

「富の川越いも」の生産を担う農家が軒を連ねる道を「いも街道」と呼び、シーズンになると街道沿いにはのぼり旗が一斉にはためき、様々な品種を各農家から直接購入できる（9月～1月頃まで）。



埼玉県指定旧跡 「三富新田」

元禄7年（1694年）7月、長年争いを繰り返してきた北武蔵野の土地は、幕府評定所の判断で川越藩の領地であることが認められた。これにより当時の川越藩主柳沢吉保は新田開発を推進し、吉保の命を受けた筆頭家老曾根権太夫ら家臣によって、開発が行われた。開発が始まってから2年後の元禄9年（1696年）5月に検地が行われ、上富91屋敷、中富40屋敷、下富49屋敷の合計180屋敷の新しい村々ができあがり、これが三富新田である。



鎌倉街道

鎌倉武士の息吹を感じる鎌倉街道

川越街道

江戸と川越を結ぶ川越街道

旧島田家住宅

旧島田家住宅は、三富新田の歴史と文化の学習の場であり、人々の交流の場として活用することを目的に移築復元された古民家。



旧池上家住宅

桁行11間・梁間6間、居室部は9間取り（9部屋）の大型の家屋で、今から140年ほど前の建築と推定される。当時の農家の中でも大きな家屋は、藍玉の生産によって得た経済力によるものと言われている。



武蔵野の雑木林

江戸時代初頭新田村が拓かれるにいたって、農用林として育成された林と屋敷を囲む林が、後に武蔵野を代表する景観になった。



参-4. 交通

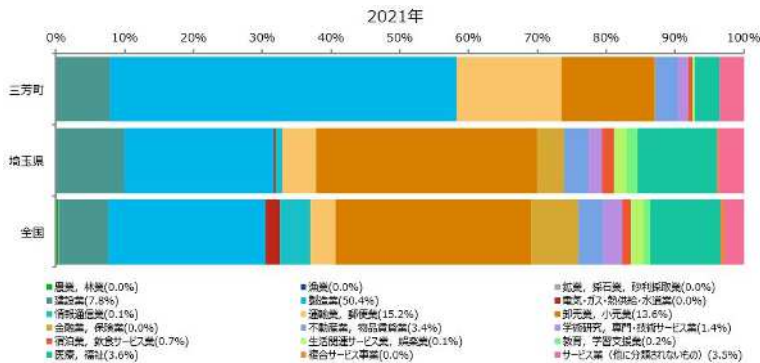
- ・ 町内の主要な公共交通となっているのはバス。町内には、ライフバス、東武バス、西武バスの3社のバスが運行されている。
- ・ 鉄道駅やバスターミナルのような交通結節点がなく、町の交通拠点となる施設がない。
- ・ 関越自動車道の沿道ということもあり、三芳町は物流が集積している。



図 地勢および交通網 (出典：三芳町交通ビジョン)

参-5. 産業

- ・ 本町の農業は都心から30キロ圏内にある畑中心の都市農業として、県内有数の農業生産額を上げている。
- ・ 代々農家によって行われてきた、武蔵野台地の赤土に堆肥などの施肥をする方法、「武蔵野の落ち葉堆肥農法」は世界農業遺産に認定された。
- ・ それにより作物が豊かに実る大地へと地道に土づくりを行ってきたことで、高品質な葉物・根菜類や狭山茶、蕎麦など、みよし野菜に関する流通市場の評価は高く、立地条件の良さから多様な販売方法を選択することができ、直売所や庭先販売による直接販売においてその需要が伸びている。
- ・ 関越自動車道などの交通立地条件を背景に、物流関連を中心とした企業が多くある。



【出典】総務省・経済産業省「経済センサス-運動調査」再編加工
【注記】凡例の数値は選択地域の数値を指す。

図 三芳町の産業特性 (出典：RESAS)

参-6. 観光

- ・ 観光拠点として、けやき通り (いも街道) や竹間沢こぶしの里等がある。
- ・ 地域の人との交流を求める観光形態の需要の増加に対し「体験交流型の観光」となる産業祭や世界一のいも掘りまつり、体験落ち葉掃きなどの各種イベントを開催している。
- ・ 三芳町独自のマイクロツーリズムとして、里山の風景を観光資源とする「みよし野ガーデン里山探訪」がある。オープンフォレスト、オープンファーム、オープンガーデンの3つのコンテンツを掲げ、都市近郊で様々な価値に出会えるマイクロツーリズムによって、持続可能なシステムの継承と地域活性化の実現を目指している。



図 みよし野ガーデン里山探訪 (出典：三芳町HP)



図 三芳町たんけんマップ (出典：三芳町HP)